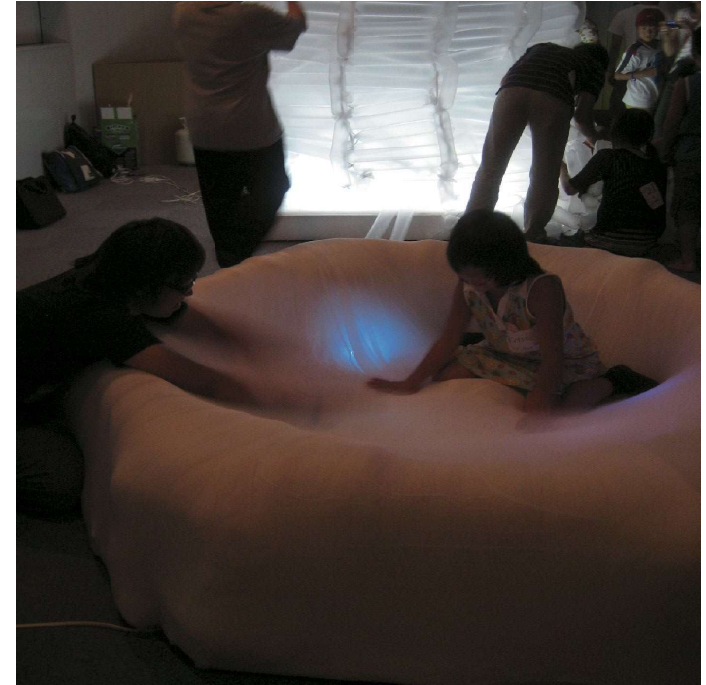


やわらかな遊具

ひとつの小さな遊具を生み出しました。  
小さな遊具ですが、ふつうの遊具とは少し違います。



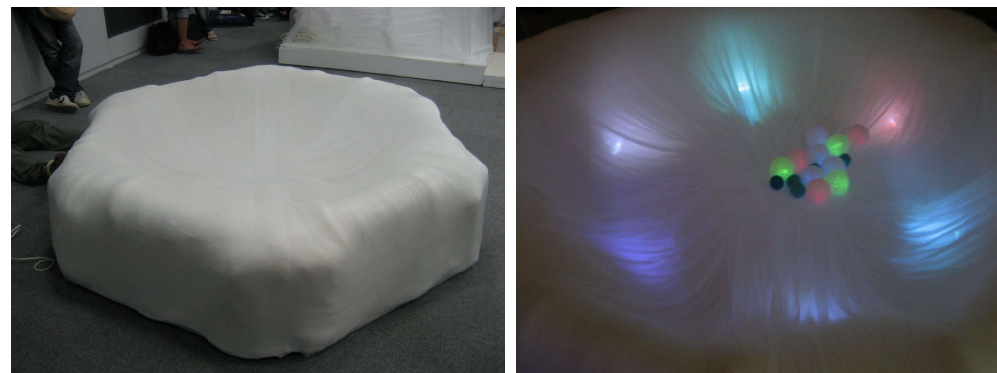
この小さな遊具は、足を入れた途端にすうっと足になじんで  
やわらかい感触が足を包みます。  
座るとなんだかお風呂に入っているような感覚になってきます。  
いったいどのようにこの遊具はできあがったのでしょうか。

遊具というとジャングルジム、シーソー、すべり台、ブランコなどが思い浮かびます。



しかし一般的に遊具は、硬くて冷たいイメージがあります。遊ぶ道具だから、そのほうが耐久性があって、それでもいいのですが、身体全体で感じる遊具や柔らかくてリラックスできるような遊具があってもいいのではないのでしょうか。遊具に多様性があつたほうが、子どもたちもきっと楽しいはずです。それは、きっと子どもだけでなく大人にも共感してもらえるのではないのでしょうか。

遊ぶことも休むこともできる遊具。  
そんな身近な遊具をつくります。



そこで、さっそくモックアップをつくりました。  
そして、実際に子どもたちに使ってもらったのです。  
子どもたちは、最初は戸惑っていましたが、持ち前の順応性ですぐにこの小さな遊具を使い倒していました。  
トランポリンのように飛び跳ねる子どももいれば、  
その傍らで、ポツンとゆっくり休んでいる子どももいました。

このやわらかな遊具は、どのようにしてつくられたのでしょうか？  
その過程に迫ります。



スタディ

搬入

制作開始～

作戦会議



骨組み制作中

LED 光制作

布団で骨組みを覆う



布団の上から布を巻く

布をピンと張って下で布を留める

完成

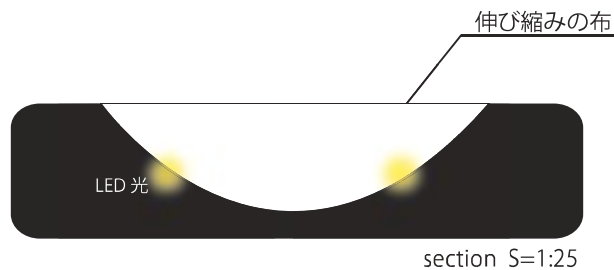
プレゼン準備

プレゼン

中はどのようになっているのでしょうか。

ピンと張った伸び縮みする布は、一度足を踏み入ると深さによって光の深度が変わります。布を透過した光はぼうっとかすかに、少しずつ色を変化していきます。

この遊具は、落ち着いて座ったり、トランポリンのように飛び跳ねたり、下からの変化する光に心を躍らせたり、いろいろな遊びを創造させてくれます。



光と布どちらもないと成立することができないような、究極のコラボレーション。

